

## 生育に応じた適期中干しと、いもち病防除の徹底を!

### 1. 分けつを早期に確保する水管理と適期中干し

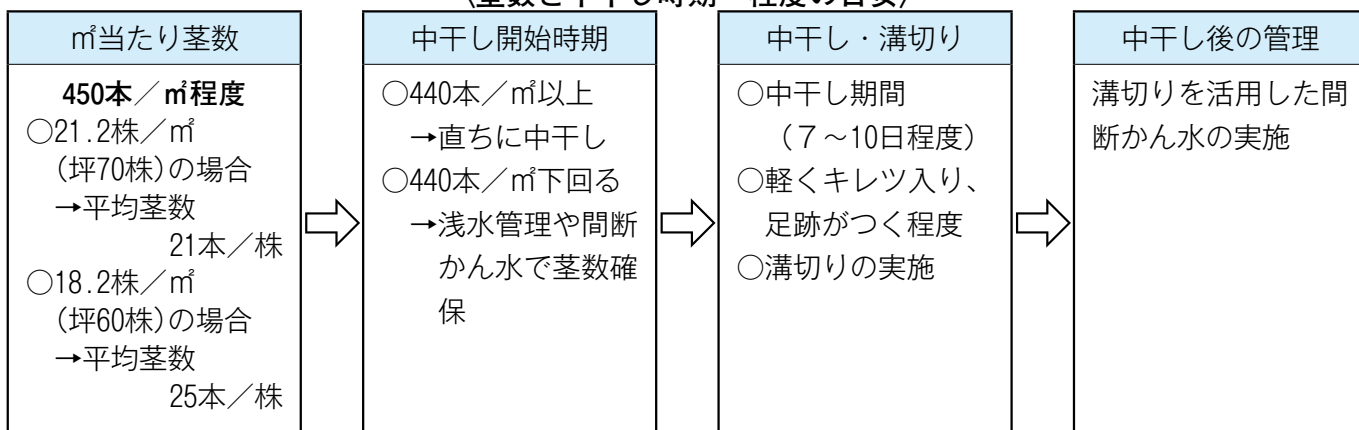
#### 【分けつの発生促進】

- 高品質・良食味米の安定生産には、強勢茎を主体に穂数を確保することが重要です。本年はほ場により分けつの発生に差が見られることから、発生が少ないほ場では水管理を適切に行い、分けつの確保に努めましょう。
- 最高気温が15℃以上の場合は浅水管理を、15℃以下の場合には深水管理を行い、水温と地温を高める管理を行います。
- 分けつの発生は昼夜の水温較差が大きい場合に促進されます。かん水は水温の低い早朝に短時間でを行い、日中は止水管理を行ってください。

#### 【適期中干し】

- 目標穂数となる450本/㎡が確保できたら、中干しを開始するようにしてください。
- 中干しは、無効分けつの発生を抑えるとともに、根の活力を高めて1穂粒数と千粒重を増加させる効果があります。下記を参考に、生育状況を見ながら中干しを開始してください。

#### 〈茎数と中干し時期・程度を目安〉



### 2. いもち病防除 (オリゼメート粒剤の散布)

初期の発病を抑えることは、その後の葉いもちの発生や穂いもちの伝染源を減少させます。葉いもち防除として箱施用剤や側条施用剤を使用していない場合は、6月15日頃(6月12~18日)にオリゼメート粒剤を10a当たり2kg散布します。湛水状態で散布し、散布後4~5日間は入水せず、7日間は落水や掛け流しをしないでください。

補植用余り苗は、いもち病が発生しやすく周辺ほ場への強力な伝染源となります。  
 ほ場に放置されている苗が散見されますので、直ちに処分して下さい。

### 3. 斑点米カメムシ類の増殖を抑える雑草管理

- 主要加害種であるアカスジカスミカメは、イネ科雑草、ホタルイ類等の穂に産卵するため、これらの雑草が畦畔や水田内で繁茂すると多発し、斑点米による被害が大きくなります。
- 一発除草剤で雑草を抑えきれなかったほ場は、発生草種に応じた中・後期剤の散布を行ってください。
- 斑点米カメムシ類の生息地を減らすために、農道や畦畔、休耕田、雑草地などの草刈りを出穂10~15日前までに数回実施します。